

Sun Server Hardware Management Pack 2.0 ユーザーズガイド



Part No: 821-2181
2010年4月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
関連マニュアル	5
このドキュメントについて (PDF および HTML)	6
関連する Sun 以外の Web サイト情報	6
コメントをお寄せください	6
変更履歴	6
Sun Server Hardware Management Pack の概要	7
Sun Server Hardware Management Pack の機能	7
Sun Server Management Agents の機能	8
Sun Server Hardware Management Agent	8
Sun Server Hardware SNMP Plugins	9
Sun Server Storage Management Agent	10
Sun Server CLI ツール	10
IPMItool	10
コンポーネントのインストール	11
はじめに	11
準備すべき事柄	11
ソフトウェアの入手	12
Sun SSM Component Manager の概要	13
前のバージョンからのアップグレード	13
Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)	14
対話型モードでの Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)	15
無人モードでの Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)	18
Component Manager の使用 (Windows の場合)	20
Component Manager のグラフィカルインタフェースの使用 (Windows の場合)	21
Component Manager のコマンド行インタフェースの使用 (Windows の場合)	24
索引	27

はじめに

この Sun Server Management ドキュメントでは、Hardware Management Pack とそのコンポーネントをインストールして使用方法についての詳細情報を提供します。

この「はじめに」では、関連ドキュメント、Sun へのフィードバックの送信、およびドキュメントの変更履歴について説明します。

- 5 ページの「関連マニュアル」
- 6 ページの「このドキュメントについて (PDF および HTML)」
- 6 ページの「関連する Sun 以外の Web サイト情報」
- 6 ページの「コメントをお寄せください」
- 6 ページの「変更履歴」

関連マニュアル

Sun サーバー 1 台構成の管理に関連するドキュメントのリストを次に示します。これらのドキュメントとその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/svrmgmt.pack>

マニュアル名	説明
『Sun Server Hardware Management Pack User's Guide』	Sun Server Hardware Management Pack の概要およびコンポーネントのインストール方法
『Sun Server Management Agent User's Guide』	Sun Server Management Agents のインストール、設定、および使用方法
『Sun Server CLI ツールおよび IPMItool ユーザーズガイド』	Sun Server CLI ツールおよび IPMItool のインストール、設定、および使用方法

このドキュメントについて (PDF および HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

関連する Sun 以外の Web サイト情報

このドキュメントでは Sun 以外の URL が参照されており、追加の関連情報を提供しています。

注 - このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。ご意見を投稿するには、<http://docs.sun.com> にアクセスして、「Feedback」をクリックしてください。

変更履歴

このドキュメントセットには次の変更が加えられています。

- 2009 年 12 月、初版発行。
- 2010 年 4 月。

Sun Server Hardware Management Pack の概要

このセクションでは、Sun Server Hardware Management Pack コンポーネントの概要および Sun サーバーでの使用方法について説明します。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 7 ページの「Sun Server Hardware Management Pack の機能」
- 8 ページの「Sun Server Management Agents の機能」
- 10 ページの「Sun Server CLI ツール」
- 10 ページの「IPMItool」

Sun Server Hardware Management Pack の機能

Sun Server Hardware Management Pack (Hardware Management Pack) は、Sun サーバーの管理および設定に役立つツールを提供します。Hardware Management Pack は、Sun SSM Component Manager を使用して Sun サーバーにインストールするコンポーネントで構成されます。Sun SSM Component Manager は Hardware Management Pack の一部として提供されます。

Hardware Management Pack コンポーネントを使用すると、次のことが可能になります。

- オペレーティングシステムレベルで管理エージェントを使用すると、SNMP (ネットワーク管理用プロトコルの一種。Simple Network Management Protocol の略) を介した Sun サーバーハードウェアの帯域内監視が可能になります。この情報を使用して、Sun サーバーをデータセンター管理インフラストラクチャーに統合できます。
- 管理エージェントを使用すると、RAID アレイを含む Sun サーバーのストレージデバイスの帯域内監視が可能になります。この情報は、Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web インタフェースまたはコマンド行インタフェース (Command-Line interface、CLI) から表示できます。
- コマンド行ツールを使用して、サーバーに BIOS、RAID ポリウム、および ILOM サービスプロセッサを設定できます。
- コマンド行ツールを使用して、サーバーコンポーネントをアップグレードできます。

- IPMItool を使用して、IPMI プロトコルを介して Sun サーバースervice プロセッサにアクセスし、管理タスクを実行できます。

Hardware Management Pack コンポーネントは、Sun SSM Component Manager (Component Manager) を使用してインストールされます。Component Manager は Hardware Management Pack の一部として提供されます。このドキュメントでは、Hardware Management Pack コンポーネントの概要およびインストール方法について説明します。

Hardware Management Pack コンポーネントの設定および使用方法の詳細については、次に示す個々のコンポーネントのドキュメントを参照してください。

- 『Sun Server Management Agents 2.0 ユーザーズガイド』
- 『Sun Server CLI ツールおよび IPMItool 2.0 ユーザーズガイド』

Sun Server Management Agents の機能

Sun Server Management Agents を使用すると、オペレーティングシステム固有のエージェントが Sun サーバを管理できるようになります。

Sun Server Management Agents コンポーネントは、次のソフトウェアを提供します。

- Sun Server Hardware Management Agent
- Sun Server Hardware SNMP Plugins
- Sun Server Storage Management Agent
- Sun Server Storage Access Libraries

Sun Server Hardware Management Agent

Sun Server Hardware Management Agent (Hardware Management Agent) および関連する Sun Server Hardware SNMP Plugins (Hardware SNMP Plugins) は、Sun x86 サーバおよびサーバモジュールのハードウェアを監視する手段を提供します。Hardware Management Agent および Hardware SNMP Plugins を使用すると、ネットワークに ILOM サービスプロセッサの管理ポートを接続することなく、SNMP を使用してデータセンター内の Sun x86 サーバおよびサーバモジュールを監視できます。この帯域内機能により、Sun x86 サーバおよびサーバモジュールの監視に単一の IP アドレス (ホストの IP) を使用できます。

Hardware Management Agent および Hardware SNMP Plugins は、Sun x86 サーバのホストオペレーティングシステムで実行し、サービスプロセッサとの通信にキーボードコントローラスタイル (Keyboard Controller-Style、KCS) インタフェースを使用します。サービスプロセッサを定期的にポーリングすることで、Sun サーバの現在の状態に関する情報が Hardware Management Agent によって自動的に取得されます。この情報はその後、Hardware SNMP Plugins を使用して、SNMP を介して使用可能になります。

Hardware Management Agent は、ハードウェア情報を求めて KCS インタフェースでサービスプロセッサをポーリングします。Hardware Management Agent は、Hardware SNMP Plugins を介してネットワーク上に表示されます。SUN-HW-MONITORING-MIB Net-SNMP プラグインは、ソケットを介して hwmgmtmd と呼ばれる Hardware Management Agent デーモンサービスと通信します。Hardware Management Agent もソケットを介して SUN-HW-TRAP-MIB Net-SNMP プラグインと通信し、Net-SNMP エージェントを介して SNMP トラップを送信します。Hardware Management Agent はまた、センサーとインジケータの読み取り値のほか、システムイベントログレコードを提供します。

システムイベントログ (System Event Log、SEL) はサービスプロセッサに格納され、温度がしきい値を超えるなどのハードウェアイベントを記録するために使用されます。Hardware Management Agent はサービスプロセッサの SEL レコードを読み取ると、この情報をホストオペレーティングシステムの syslog に書き込み、SUN-HW-TRAP-MIB トラップを送信します。最終的に、Hardware Management Agent も Hardware Management Agent の状態に関する情報を含む別個のログを維持するため、トラブルシューティングに使用できます。

Sun Server Hardware SNMP Plugins

Sun Server Hardware SNMP Plugins は、2つの Net-SNMP プラグインで構成されています。これらの Net-SNMP プラグインは、Sun x86 サーバーを効果的に監視できるように設計された、2つの Sun 固有のハードウェア管理情報ベース (MIB) のコンパイルされたバージョンです。Sun HW Monitoring MIB は新たに開発された MIB であり、次の情報を提供します。

- システム全体のアラームの状態
- デバイスタイプごとの集合アラームの状態
- FRU アラームの状態
- センサー、センサーの種類、センサーの読み取り値、およびセンサーのしきい値のリスト
- インジケータの状態
- システムロケータの制御
- 基本製造情報を含むリスト
- 製品およびシャーシ情報 (シリアル番号、パーツ番号など)
- 各センサーのアラームの状態

Sun HW Trap MIB は Sun x86 サーバーで生成されることがあるハードウェアイベントの一連のトラップを記述しており、次の情報を提供します。

- サーバーの環境状態に影響を与える状況 (サーバーまたはサーバーの部品が過熱している、部品の電圧または電流が許容範囲を超えているなど)

- サーバーのハードウェア部品に影響を与えるエラー状況 (FRU の挿入や取り外し、セキュリティー侵入通知など)

Sun Server Storage Management Agent

Sun Server Storage Management Agent には、ハードドライブや RAID アレイなどのストレージデバイスに関する情報を収集するオペレーティングシステムレベルのデーモンが含まれており、この情報を ILOM サービスプロセッサに送信します。Storage Management Agent デーモンをインストールして実行すると、ユーザーの介入なしで動作します。ILOM サービスプロセッサを使用すると、CLI を使用して Storage Management Agent によって提供される情報を表示できます。詳細は、ILOM サービスプロセッサのドキュメントを参照してください。

Sun Server CLI ツール

Sun Server CLI ツール (CLI ツール) は、Sun サーバーを設定するコマンド行インタフェースツールを提供します。CLI ツールは Hardware Management Pack コンポーネントであり、Sun SSM Component Manager を使用してインストールされます。

CLI ツールは次のソフトウェアで構成されます。

- BIOSconfig では、サーバーの BIOS 設定を構成できます。
- RAIDconfig では、サーバーで RAID ボリュームを設定でき、XML 構成ファイルを使用して自動化できます。
- ILOMconfig では、ILOM を設定でき、XML 構成ファイルを使用して自動化できます。
- FWupdate では、サーバーコンポーネントのファームウェアをアップグレードできます。

IPMItool

Hardware Management Pack の一部として提供される IPMItool のバージョンの 1 つで、システムに IPMItool がまだインストールされていない場合にインストールできます。IPMItool は、IPMI プロトコルをサポートするデバイスの管理および設定を行うことができるコマンド行アプリケーションです。IPMItool の詳細については、<http://ipmitool.sourceforge.net/> を参照してください。

コンポーネントのインストール

このセクションでは、提供された Sun Server Component Manager を使用して、Sun x86 サーバーで Hardware Management Pack コンポーネントをインストールおよびアンインストールする方法について説明します。このセクションでは、次の項目について説明します。

- 11 ページの「はじめに」
- 11 ページの「準備すべき事柄」
- 12 ページの「ソフトウェアの入手」
- 13 ページの「Sun SSM Component Manager の概要」
- 13 ページの「前のバージョンからのアップグレード」
- 14 ページの「Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)」
- 20 ページの「Component Manager の使用 (Windows の場合)」

はじめに

Hardware Management Pack コンポーネントは、次の方法でインストールできます。

- 対話型モードで Sun Server Component Manager を使用します。
- 無人モードで Sun Server Component Manager を使用します。

どのインストール方法を選択しても、Linux または Solaris の場合は root、Windows の場合は Administrator のように、管理者権限を持つユーザーとしてインストールを実行する必要があります。

準備すべき事柄

サポートされるコンポーネントはサーバーやオペレーティングシステムによって異なるため、インストールするすべてのコンポーネントがターゲットのプラットフォームをサポートしていることを確認してください。続行する前に、サポートされているプラットフォーム情報を次の Web サイトで確認してください。

http://www.sun.com/systemmanagement/managementpack_supportmatrix.jsp

ターゲットサーバーのオペレーティングシステムによって、次に示す注意事項があります。

- Oracle Solaris オペレーティングシステム - Sun Server Hardware SNMP Plugins が正しく機能するためには、System Management Agent (SMA) がインストールされている必要があります。Solaris にはデフォルトで SMA がインストールされています。SMA についての詳細は、snmpd(1M) を参照してください。Hardware Management Pack コンポーネントのインストールは、大域ゾーンで実行する必要があります。Hardware Management Agent が正しく機能するためには、システムにデバイス /dev/bmc がインストールされている必要があります。
- Linux オペレーティングシステム - Sun Server Hardware SNMP Plugins が正しく機能するためには、Net-SNMP がインストールされている必要があります。Net-SNMP についての詳細は、snmpd ドキュメントを参照してください。また、Sun x86 Server のサービスプロセッサとホストオペレーティングシステムとの間で、KCS IPMI インタフェースが有効になっていることを必ず確認してください。Hardware Management Agent が正しく機能するためには、Hardware Management Agent の使用時に、root ユーザーが IPMI デバイスに対して読み取り/書き込みアクセス権限を持つ必要があります。
- Windows オペレーティングシステム - Sun Server Hardware SNMP Plugins が正しく機能するためには、IPMI デバイスがインストールされ、SNMP サービスが有効になっている必要があります。使用している Windows のバージョンで利用可能な IPMI デバイスについての詳細は、使用している Windows 製品ドキュメントを参照してください。

ソフトウェアの入手

開始する前に、ターゲットの Sun サーバーのオペレーティングシステムと互換性のある最新の Hardware Management Pack を次の Web サイトからダウンロードする必要があります。

<http://www.sun.com/system-management/os-hw-mgmt>

このファイルには、Hardware Management Pack コンポーネントをインストールするために必要なファイルが含まれています。

Hardware Management Pack でサポートされているオペレーティングシステムのダウンロードファイルの名前を次に示します。

`sun-ssm-mgmt-pack-version-OSVersionNumber`

`version` は Hardware Management Pack のバージョンを意味し、`OSVersionNumber` は、この Hardware Management Pack が対象とするオペレーティングシステムを意味します。

Hardware Management Pack をダウンロードしたら、管理する Sun x86 サーバーのローカルディレクトリでファイルを圧縮解除する必要があります。

注 - Solaris オペレーティングシステムでは、pkgadd(1M) の制限により、Hardware Management Pack を圧縮解除するパスに空白を含めると、インストールプロセスを続行できません。

Sun SSM Component Manager の概要

Sun SSM Component Manager (Component Manager) は、Hardware Management Pack の一部として提供されます。Component Manager により、Hardware Management Pack コンポーネントのインストールとアンインストールが可能になるだけでなく、現在インストールされている使用可能なコンポーネントを検査することができます。Component Manager の使用法は、使用しているオペレーティングシステムによって異なります。

Component Manager がインストールされている Linux および Solaris オペレーティングシステムでは、そのままコンポーネントをインストールできます。手順については、14 ページの「Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)」の内容に従ってください。

Windows オペレーティングシステムでは、Component Manager はダウンロード先のフォルダから実行され、1 つ以上のコンポーネントがインストールされるとインストールディレクトリにコピーされます。手順については、20 ページの「Component Manager の使用 (Windows の場合)」の内容に従ってください。

前のバージョンからのアップグレード

システムにバージョン 1.3 よりも前の Hardware Management Pack がインストールされている場合、最新バージョンをインストールする前に、以前のバージョンを手動でアンインストールする必要があります。インストール手続きで Component Manager が以前の Hardware Management Pack バージョンを検出した場合、Component Manager を使用したリリースのパッケージングが変更されているため、システムのアップグレードは行われません。

Management Agents 2.0 は、Hardware Management Pack バージョン 1.3 の一部として提供される CLI Tools 1.0 と互換性がありません。Component Manager がこの競合を検出した場合は、CLI Tools コンポーネントのアップグレードを承認する必要があります。CLI Tools 2.0 は、Hardware Management Pack バージョン 1.3 の一部として提供される Management Agents 1.3 と互換性がありません。対話型モードで Component Manager を使用中にこの競合が検出された場合は、Management Agents コンポーネントのアップグレードを承認する必要があります。無人モードで Component Manager を使用中にこの競合が検出された場合は、Management Agents コンポーネントは自動的にアップグレードされます。

いずれの場合でも、次の Web サイトでサポートされているサーバーマトリックスを確認し、システムがアップグレードされたコンポーネントによってサポートされていることを必ず確認してください。

http://www.sun.com/systemmanagement/managementpack_supportmatrix.jsp

Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)

Component Manager を Linux および Solaris オペレーティングシステムで使用するには、最初に Component Manager をインストールする必要があります。Component Manager をインストールすると、コマンド行インタフェースを使用して対話的にコンポーネントをインストールする方法か、コマンド行スイッチを使用して自動的にコンポーネントをインストールする方法のいずれかを選択できます。後者の場合は、無人インストールが有効になります。

▼ Component Manager のインストール方法 (Linux および Solaris の場合)

始める前に 続行する前に、ターゲットサーバーに Hardware Management Pack をダウンロードして圧縮解除する必要があります。そして、root 権限を持つユーザーとして次の手順を実行する必要があります。

- 1 端末を開きます。
- 2 **Hardware Management Pack** パッケージを圧縮解除したディレクトリに移動し、次に SOFTWARE サブディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力します。

```
./setup.sh
```

Component Manager インストーラが起動します。

- 4 **Component Manager** のインストールを確認する次のメッセージで、Y と入力します。

```
Sun SSM Component Manager をインストールしますか ? [Y]es, [N]o>
```

Component Manager が次のパスでサーバーにインストールされます。

```
/usr/sbin/sunssmcompmgr
```

Component Manager のインストールが完了すると、インストーラが、Component Manager を対話型モードで自動的に起動するかどうかを尋ねます。

次の手順 Component Manager をインストールすると、対話型モードまたは無人モードのいずれかを選択できます。詳細は、次を参照してください。

- 15 ページの「対話型モードでの Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)」
- 18 ページの「無人モードでの Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)」

対話型モードでの **Component Manager** の使用 (Linux および Solaris の場合)

Component Manager を対話型モードで使用している場合、対話式のコマンド行インタフェースでコンポーネントを操作できます。

注 - Windows オペレーティングシステムではコマンド行の対話型モードを使用できないため、Windows のグラフィカルインストーラを使用します。24 ページの「Component Manager のコマンド行インタフェースの使用 (Windows の場合)」を参照してください。

次の表に、Component Manager を対話式に使用する場合に使用できる機能を示します。

オプション	機能
[L]ist	現在使用可能なコンポーネントのリストを表示します。
[D]etailed list	現在使用可能なコンポーネントのリストに関する詳細情報を表示します。
[I]ninstall	使用可能なコンポーネントの一部またはすべてのインストールを可能にします。
[U]ninstall	現在インストールされているコンポーネントの一部またはすべてのアンインストールを可能にします。
[H]elp	Component Manager の使用方法に関する情報を表示します。
[Q]uit	Component Manager を終了します。

[] 文字の間に示された英文字を入力して、Component Manager のオプションを選択してください。

Component Manager をインストールすると、Component Manager の対話型モードまたは無人モードのいずれかを使用して Hardware Management Pack コンポーネントに対応できます。詳細は、次を参照してください。

- 15 ページの「対話型モードでの Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)」
- 18 ページの「無人モードでの Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)」

▼ Component Manager を対話式に使用した場合のインストール方法 (Linux および Solaris の場合)

始める前に 続行する前に Component Manager をインストールする必要があります。そして、root 権限を持つユーザーとして次の手順を実行する必要があります。

注 - 前のバージョンからアップグレードする場合は、13 ページの「前のバージョンからのアップグレード」を参照してください。

- 1 端末を開きます。
- 2 **Hardware Management Pack** のダウンロードファイルを圧縮解除したディレクトリ内で、SOFTWARE サブディレクトリ内の Packages サブディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力して、**Component Manager** を対話型モードで起動します。

```
/usr/sbin/sunssmcompmgr
```

Component Manager が起動し、Packages サブディレクトリにある現在インストールされているコンポーネントと使用可能なコンポーネントのリストが表示されます。

ヒント - オプションの `-d directory` は、Component Manager が使用可能なコンポーネントを検索するディレクトリを指定します。

- 4 使用可能なコンポーネントのリストに表示されているコンポーネントをインストールするには、次のメッセージで I と入力します。

```
[L]ist, [D]etailed list, [I]ninstall, [U]ninstall, [H]elp or [Q]uit >
```

使用可能なコンポーネントの番号付きのリストが表示されます。

- 5 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 1 つの特定のコンポーネントをインストールするには、コンポーネント名の右側に表示されている番号を入力します。

- 一覧表示されているすべてのコンポーネントをインストールするには、Aと入力します。
 - 前のメニューに戻るには、Rと入力します。
- 6 手順5で選択したコンポーネントによって、次に示すような追加オプションの指定が必要になる場合があります。
- hwmgmtd サービスを起動しますか？ [Y]es, [N]o >
名前付きのサービスを起動または再起動するには、Yと入力します。
 - 起動時に hwmgmtd サービスをデフォルトで有効にしますか？ [Y]es, [N]o >
名前付きのサービスをサーバーが起動するたびに有効にするには、Yと入力します。

▼ **Component Manager** を対話式に使用した場合のアンインストール方法 (Linux および Solaris の場合)

- 1 端末を開きます。
- 2 次のコマンドを入力して、**Component Manager** を対話型モードで起動します。
`/usr/sbin/sunssmcompmgr`
Component Manager が起動し、現在インストールされているコンポーネントのリストを表示します。
- 3 使用可能なコンポーネントのリストに表示されているコンポーネントをアンインストールするには、次のメッセージでuと入力します。
[L]ist, [D]etailed list, [I]ninstall, [U]ninstall, [H]elp or [Q]uit >
使用可能なコンポーネントの番号付きのリストが表示されます。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 1つの特定のコンポーネントをアンインストールするには、コンポーネント名の右側に表示されている番号を入力します。
 - 一覧表示されているすべてのコンポーネントをアンインストールするには、Aと入力します。
 - 前のメニューに戻るには、Rと入力します。

無人モードでの Component Manager の使用 (Linux および Solaris の場合)

Component Manager は、Hardware Management Pack コンポーネントをコマンド行で操作できる無人モードを提供しています。

Linux および Solaris オペレーティングシステムでは、Component Manager は次のコマンド行オプションを提供しています。

オプションとアクション	機能
-h	Component Manager 使用時のヘルプを表示します。
-v	Component Manager のバージョン情報を表示します。
-d <i>directory</i>	コンポーネントパッケージのカスタムディレクトリを指定します。デフォルトのオプションでは、現在のディレクトリでコンポーネントパッケージを検索します。
-l <i>log</i>	ログ用のカスタムファイルを指定します。
-s	コンポーネントのインストールおよびアンインストール中のサービスの操作 (起動、再起動、または停止) を無効にします。
-c	インストール済みのコンポーネントと使用可能なコンポーネントの両方に関する情報を表示します。
-D	インストール済みのコンポーネントと使用可能なコンポーネントの両方に関する詳細情報を表示します。
-I <i>COMPONENT1:COMPONENT2</i>	コンポーネントをインストールします。コンポーネント名はコロン (:) で区切られます。コンポーネントのリストとして「ALL」が指定されている場合、使用可能なすべてのコンポーネントがインストールされます。
-U <i>COMPONENT1:COMPONENT2</i>	コンポーネントをアンインストールします。コンポーネント名はコロン (:) で区切られます。コンポーネントのリストとして「ALL」が指定されている場合、使用可能なすべてのコンポーネントがアンインストールされます。

-I オプションを使用してインストールするコンポーネントを一覧表示する場合、または -U オプションを使用してアンインストールするコンポーネントを一覧表示する場合は、コンポーネント名をコロン (:) で区切る必要があります。-c または -D オプションを使用すると、コンポーネント名が角括弧に囲まれて表示されます。

▼ Component Manager を無人モードで使用した場合のインストール方法 (Linux および Solaris の場合)

Component Manager を無人モードで使用する場合は、コンポーネントを個別に、またはすべてインストールすることができます。Component Manager は、Packages サブディレクトリにある使用可能なコンポーネントのリストを表示できます。また、Component Manager がコンポーネントに関連したサービスを自動的に起動するかどうかを設定することもできます。

注- 前のバージョンからアップグレードする場合は、13 ページの「前のバージョンからのアップグレード」を参照してください。

- 1 端末を開きます。
- 2 **Hardware Management Pack** のダウンロードファイルを圧縮解除したディレクトリ内で、SOFTWARE サブディレクトリ内の Packages サブディレクトリに移動します。

ヒント - Packages サブディレクトリに移動する代わりに、コンポーネントのパッケージに使用する代替ディレクトリを Component Manager に渡す場合は、`-d directory` オプションを使用します。

- 3 次のコマンドを入力して、使用可能なコンポーネントを一覧表示します。

```
/usr/sbin/sunssmcompmgr -C
```

使用可能なコンポーネントのリストが端末に表示されます。次の手順で使用するコンポーネントの正確な名前は、たとえば `[component name]` のように、角括弧に囲まれて表示されます。

- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 選択したコンポーネントを無人モードでインストールするには、次のコマンドを入力します。

```
sunssmcompmgr -I COMPONENT1:COMPONENT2
```

`COMPONENT1:COMPONENT2` はインストールするコンポーネントのリストであり、コロン (:) で区切られています。

- 使用可能なすべてのコンポーネントを無人モードでインストールするには、次のコマンドを入力します。

```
sunssmcompmgr -I ALL
```

選択したコンポーネントがインストールされます。

▼ Component Manager を無人モードで使用した場合のアンインストール方法 (Linux および Solaris の場合)

- 1 端末を開きます。
- 2 次のコマンドを入力して、現在インストールされているコンポーネントを一覧表示します。

```
/usr/sbin/sunssmcompmgr -C
```

ヒント-現在インストールされているコンポーネントの詳細情報を取得する場合は、`-D` オプションを使用します。

現在インストールされているコンポーネントが一覧表示されます。次の手順で使用するコンポーネントの正確な名前は、たとえば `[component name]` のように、角括弧に囲まれて表示されます。

- 3 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 選択したコンポーネントを無人モードでアンインストールするには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/sbin/sunssmcompmgr -U COMPONENT1:COMPONENT2
```

`COMPONENT1:COMPONENT2` はインストールするコンポーネントのリストであり、コロン (:) で区切られています。

- インストールされているすべてのコンポーネントを無人モードでアンインストールするには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/sbin/sunssmcompmgr -U ALL
```

選択したコンポーネントがアンインストールされます。

Component Manager の使用 (Windows の場合)

Component Manager を Windows オペレーティングシステムで使用する場合は、コマンド行インタフェースかグラフィカルユーザーインタフェースのいずれかを選択できます。Component Manager のグラフィカルユーザーインタフェースは、SSM コンポーネントを管理するための便利なウィザードを提供しています。Component Manager のコマンド行インタフェースは、無人での配備に使用できるテキストベースのインタフェースを提供しています。

このセクションでは、次の情報について説明します。

- [21 ページの「Component Manager のグラフィカルインタフェースの使用 \(Windows の場合\)」](#)

- 24 ページの「Component Manager のコマンド行インタフェースの使用 (Windows の場合)」

Component Manager のグラフィカルインタフェースの使用 (Windows の場合)

Component Manager のグラフィカルインタフェースは、コンポーネントを操作するためのグラフィカルなウィザードを提供します。Component Manager は、Packages サブディレクトリにある使用可能なコンポーネントのほかに、インストール済みのコンポーネントのリストを提供します。また、Component Manager がコンポーネントに関連したサービスをどのように設定するかを制御することもできます。

▼ Component Manager のグラフィカルインタフェースを使用した場合のインストール方法 (Windows の場合)

Component Manager のグラフィカルインタフェースを使用する場合は、コンポーネントを個別に、またはすべてインストールすることができます。Component Manager がコンポーネントに関連したサービスを自動的に起動または再起動するかどうかを選択することもできます。

注- 前のバージョンからアップグレードする場合は、13 ページの「前のバージョンからのアップグレード」を参照してください。

- 1 **Hardware Management Pack** をダウンロードして展開したフォルダに移動し、SOFTWARE フォルダを開きます。
- 2 `sunssmcompmgr_gui` をダブルクリックします。
Component Manager のグラフィカルインタフェースが開きます。
- 3 ローカルのインストールソースで「**Deploy component (配備コンポーネント)**」をクリックします。

配備可能なコンポーネントの情報が表示されます。

画面の右側に、配備可能なコンポーネントのほか、システムに現在インストールされているコンポーネントのリストが表示されます。画面の左側には、現在選択されているコンポーネントの情報が表示されます。

- 4 「**Available components to deploy (配備可能なコンポーネント)**」リストで、このサーバーにインストールする1つまたは複数のコンポーネントのチェックボックスを選択します。完了したら、「**Next (次へ)**」をクリックします。

配備前のタスクのリストが表示されます。選択したコンポーネントにより、配備前のタスクのリストにタスクがない場合もあれば、SSM コンポーネントの配備前に Component Manager が実行できるオプションのタスクが含まれている場合もあります。

- 5 (省略可能)SSM コンポーネントを配備する前に **Component Manager** に実行させるタスクがある場合は、配備前のタスクのリストで1つまたは複数のタスクをクリックします。配備前のタスクを選択したら、「**Next (次へ)**」をクリックします。

配備後のタスクのリストが表示されます。選択したコンポーネントにより、配備後のタスクのリストにタスクがない場合もあれば、SSM コンポーネントの配備後に Component Manager が実行できるオプションのタスクが含まれている場合もあります。

- 6 (省略可能)SSM コンポーネントを配備した後に **Component Manager** に実行させるタスクがある場合は、配備後のタスクのリストで1つまたは複数のタスクをクリックします。配備後のタスクを選択したら、「**Next (次へ)**」をクリックします。

「Deployment configuration summary (配備設定の概要)」が開きます。

- 7 「**Deployment configuration summary (配備設定の概要)**」を確認したら、「**Deploy (配備)**」をクリックして選択した **SSM** コンポーネントをインストールします。

Component Manager は選択したコンポーネントをインストールして設定します。インストールが完了すると、実行されたアクションのログが表示されます。

▼ **Component Manager** のグラフィカルインタフェースを使用した場合のアンインストール方法 (Windows の場合)

Component Manager のグラフィカルインタフェースを使用すると、グラフィカルなウィザードを使用してコンポーネントをアンインストールできます。また、Component Manager がコンポーネントに関連したサービスを自動的に停止するかどうかを設定することもできます。

- 1 「**Control Panel (コントロールパネル)**」に移動して、「**Add or Remove Programs (プログラムの追加と削除)**」を開きます。

ヒント - Component Manager のグラフィカルインタフェースは、Hardware Management Pack コンポーネントをインストールしたディレクトリから `sunssmcompmgr_gui` を実行しても開くことができます。

- 2 「**Currently installed programs** (現在インストールされているプログラム)」のリストで、削除するコンポーネントをクリックします。
クリックしたコンポーネントが選択され、「**Change / Remove** (変更と削除)」ボタンが表示されます。
- 3 「**Change / Remove** (変更と削除)」をクリックします。
Component Manager のグラフィカルインタフェースが開きます。
- 4 **Component Manager** のグラフィカルインタフェースで、「**Remove deployed component** (配備されたコンポーネントを削除)」をクリックします。
「**Available components to remove** (削除できるコンポーネント)」のリストが表示されます。
- 5 削除するコンポーネントを選択し、「**Next** (次へ)」をクリックします。
削除前のタスクのリストが表示されます。選択したコンポーネントにより、削除前のタスクのリストにタスクがない場合もあれば、SSM コンポーネントの削除前に Component Manager が実行できるオプションのタスクが含まれている場合もあります。
- 6 (省略可能) SSM コンポーネントを削除する前に **Component Manager** に実行させるタスクがある場合は、削除前のタスクのリストで1つまたは複数のタスクをクリックします。削除前のタスクを選択したら、「**Next** (次へ)」をクリックします。
削除後のタスクのリストが表示されます。選択したコンポーネントにより、削除後のタスクのリストにタスクがない場合もあれば、SSM コンポーネントの削除後に Component Manager が実行できるオプションのタスクが含まれている場合もあります。
- 7 (省略可能) SSM コンポーネントを削除した後に **Component Manager** に実行させるタスクがある場合は、削除後のタスクのリストで1つまたは複数のタスクをクリックします。削除後のタスクを選択したら、「**Next** (次へ)」をクリックします。
「**Removal configuration summary** (削除設定の概要)」が開きます。
- 8 「**Removal configuration summary** (削除設定の概要)」を確認したら、「**Remove** (削除)」をクリックして選択した SSM コンポーネントをアンインストールします。
Component Manager は選択したコンポーネントをアンインストールして設定します。アンインストールが完了すると、実行されたアクションのログが表示されます。

Component Manager のコマンド行インタフェースの使用 (Windows の場合)

Windows オペレーティングシステムで使用する Component Manager のコマンド行は、Linux および Solaris オペレーティングシステムで使用可能な無人モードと同じ機能を提供します。コマンド行でオプションとアクションを Component Manager に渡すときは、次の表記規則に従います。

```
sunssmcompmgr.exe [/h /v /s] [/r dir] [/d dir] [/l log] [ACTION]
```

次の表に、オプションとアクションの機能を示します。

オプションとアクション	機能
/h	Component Manager の使用に関するヘルプを表示します。
/v	Component Manager のバージョン情報を表示します。
/d <i>directory</i>	コンポーネントパッケージのカスタムディレクトリを指定します。デフォルトのオプションでは、現在のディレクトリでコンポーネントパッケージを検索します。
/l <i>log</i>	ログ用のカスタムファイルを指定します。
/s	コンポーネントのインストールおよびアンインストール中のサービスの操作 (起動、再起動、または停止) を無効にします。
/c	インストール済みのコンポーネントと使用可能なコンポーネントの両方に関する情報を表示します。
/d	インストール済みのコンポーネントと使用可能なコンポーネントの両方に関する詳細情報を表示します。
/I <i>COMPONENT1</i> <i>COMPONENT2</i>	コンポーネントをインストールします。コンポーネント名は空白文字で区切られます。コンポーネントのリストとして「ALL」が指定されている場合、使用可能なすべてのコンポーネントがインストールされます。
/U <i>COMPONENT1</i> <i>COMPONENT2</i>	コンポーネントをアンインストールします。コンポーネント名は空白文字で区切られます。コンポーネントのリストとして「ALL」が指定されている場合、使用可能なすべてのコンポーネントがアンインストールされます。

/I オプションを使用してインストールするコンポーネントを一覧表示する場合、または /U オプションを指定してアンインストールするコンポーネントを一覧表示する場合は、コンポーネント名を空白文字で区切る必要があります。コンポーネント名は、/c または /d オプションを使用すると表示されます。

▼ Component Manager のコマンド行インタフェースを使用した場合のインストール方法 (Windows の場合)

Component Manager のコマンド行を使用する場合は、コンポーネントを個別に、またはすべてインストールすることができます。Component Manager は、Packages サブディレクトリにある使用可能なコンポーネントのリストを表示できます。また、Component Manager がコンポーネントに関連したサービスを自動的に起動するかどうかを設定することもできます。

注- 前のバージョンからアップグレードする場合は、13 ページの「前のバージョンからのアップグレード」を参照してください。

- 1 コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 2 **Hardware Management Pack** のダウンロードファイルを圧縮解除したディレクトリ内で、SOFTWARE サブディレクトリに移動します。

ヒント- /d *Directory* オプションを使用すると、Packages サブディレクトリに移動する代わりに、コンポーネントのパッケージに使用する代替ディレクトリを Component Manager に渡すことができます。

- 3 次のコマンドを入力して、使用可能なコンポーネントを一覧表示します。

```
sunssmcompmgr /C
```

使用可能なコンポーネントのリストがコマンドプロンプトウィンドウに表示されます。

- 4 次のいずれかのオプションを選択します。

- 選択したコンポーネントをインストールするには、次のコマンドを入力して **Component Manager** を無人モードで起動します。

```
sunssmcompmgr /I COMPONENT1 COMPONENT2
```

COMPONENT1 COMPONENT2 はインストールするコンポーネントのリストであり、空白文字で区切られています。

注- インストール済みのコンポーネントがある場合は、ALL フラグを使用せずにこの方法を使用する必要があります。

- 使用可能なすべてのコンポーネントをインストールするには、次のコマンドを入力して **Component Manager** を無人モードで起動します。

```
sunssmcompmgr /I ALL
```

選択したコンポーネントがインストールされます。

▼ Component Manager のコマンド行インタフェースを使用した場合のアンインストール方法 (Windows の場合)

Component Manager のコマンド行インタフェースを使用する場合は、コンポーネントを個別に、またはすべてアンインストールすることができます。Component Manager は、現在インストールされているコンポーネントのリストを表示します。また、Component Manager がコンポーネントに関連したサービスを自動的に停止するかどうかを設定することもできます。

- 1 コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 2 **Hardware Management Pack** コンポーネントをインストールしたディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力して、現在インストールされているコンポーネントを一覧表示します。

```
sunssmcompmgr /C
```

使用可能なコンポーネントと現在インストールされているコンポーネントが一覧表示されます。

ヒント - また、/D オプションを使用すると、現在インストールされているコンポーネントの詳細情報を取得できます。

- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 選択したコンポーネントを無人モードでアンインストールするには、次のコマンドを入力します。

```
sunssmcompmgr /U COMPONENT1 COMPONENT2
```

COMPONENT1 COMPONENT2 はアンインストールするコンポーネントのリストであり、空白文字で区切られています。
 - 使用可能なすべてのコンポーネントを無人モードでアンインストールするには、次のコマンドを入力します。

```
sunssmcompmgr /U ALL
```

選択したコンポーネントがアンインストールされます。

索引

C

Component Manager

- Windows のコマンド行, 24
- 対話式にインストール, 16-17
- 無人モード, 18, 19

I

- ILOM, 7
- Integrated Lights Out Manager, 7
- IPMItool, 10

L

Linux

- Sun SSM Component Manager の使用, 14
- アンインストール, 17
- 無人モードでのアンインストール, 20
- 無人モードでのインストール, 19
- 無人モードの Component Manager, 18

S

- Simple Network Management Protocol, 7
- SNMP, 7, 8

Solaris

- Sun SSM Component Manager の使用, 14
- アンインストール, 17
- 無人モードでのアンインストール, 20
- 無人モードでのインストール, 19

Solaris (続き)

- 無人モードの Component Manager, 18
- SUN-HW-MONITORING-MIB, 8
- SUN-HW-TRAP-MIB, 8
- Sun Server Hardware Management Agent, 8
- Sun Server Hardware Management Pack, 7
- Sun Server Hardware SNMP Plugins, 8, 9
- Sun Server Management Agents, 8
- Sun Server Storage Management Agent, 10
- Sun SSM Component Manager, 7
- 使用, 14
- の概要, 13
- Sun Server CLI ツール, 10

W

Windows

- Component Manager のグラフィカルインタフェースを使用したアンインストール, 22-23
- Component Manager のグラフィカルインタフェースを使用したインストール, 21-22
- Component Manager のコマンド行, 24
- Component Manager のコマンド行を使用したインストール, 25

あ

- アンインストール
- Linux, 17
- Solaris, 17

アンインストール (続き)
無人モード, 20

い
インストール
Windows, 21-22, 22-23, 25
無人モード, 19

し
システムイベントログ, 8

た
対話式にアンインストール, Component Manager
の使用, 17

ひ
必要条件, 11

む
無人モード
アンインストール, 20
インストール, 19